

〈小学校総合的な学習の時間部会〉

研究主題・副主題

児童の自己学習力の向上を図る 個に応じた指導の充実
～「日本の伝統・文化」にかかわる単元開発を通して～

研究の概要

単元開発の視点や専門機関との連携、具体的な学習過程、児童の学びを明らかにして、「日本の伝統・文化」にかかわる単元開発を行う。また、児童の自己学習力を高める総合的な学習の時間の指導の在り方を提案する。

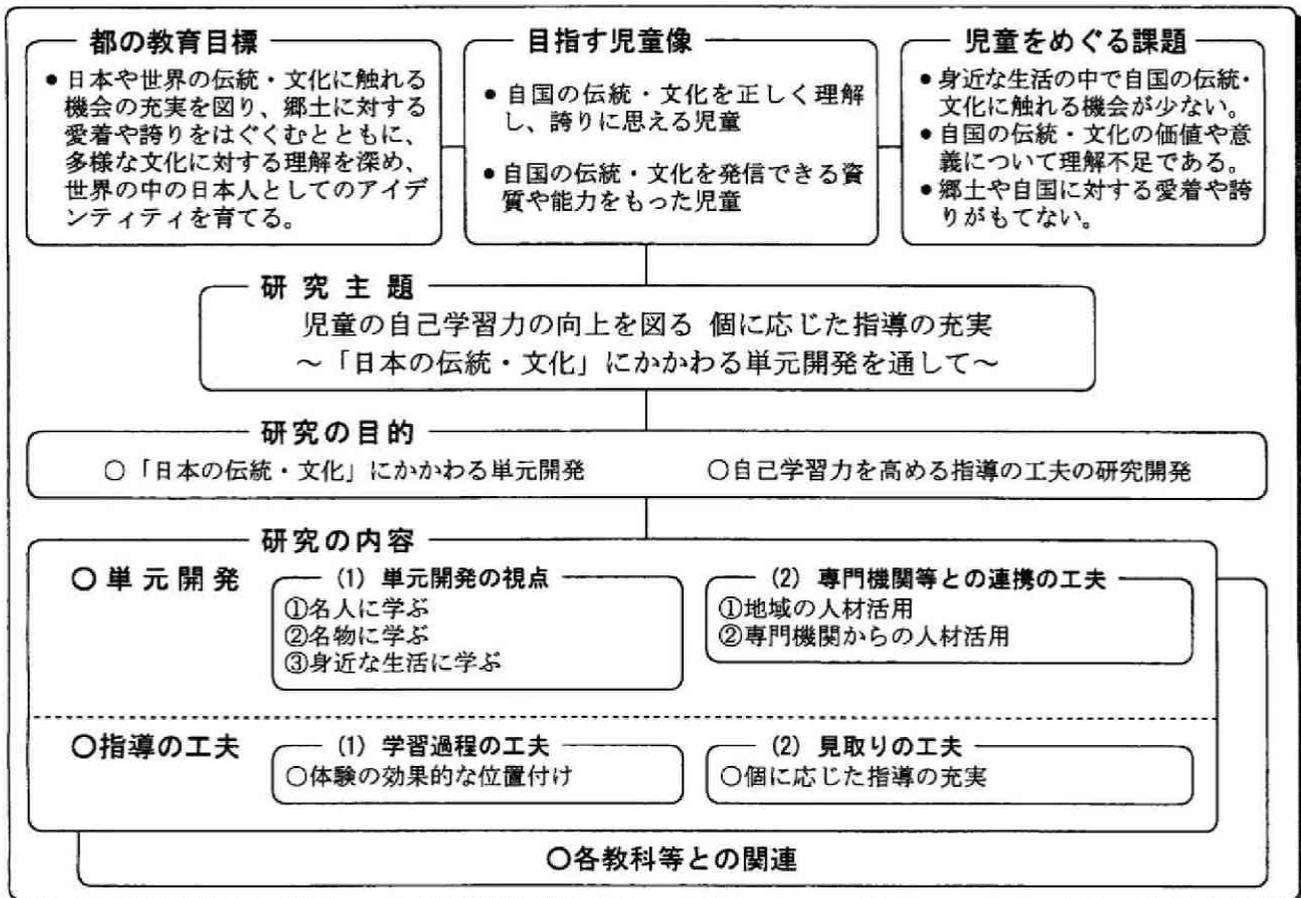
I 研究の目的

これからの国際社会に生きる日本人としての自覚をもち、多様な文化を尊重できる資質や態度を児童にはぐくむことが求められている。しかし、自国の伝統・文化の価値や意義について理解不足であったり、郷土や自国に対する愛着や誇りに気付かなかったりする児童の姿がみられる。

そこで、本研究では「日本の伝統・文化」にかかわる単元を開発し、「日本の伝統・文化」に触れる機会を充実させ、郷土に対する愛着や誇りをはぐくみ、自国の伝統・文化への理解を深め、それらを尊重できる児童の育成を行うことをねらいとした。

II 研究の方法

児童の自己学習力をはぐくむことを念頭に、「日本の伝統・文化」にかかわる単元開発をするため、以下の研究構想を立てた。授業を通して検証し、成果や課題を明らかにした。



Ⅲ 研究の内容

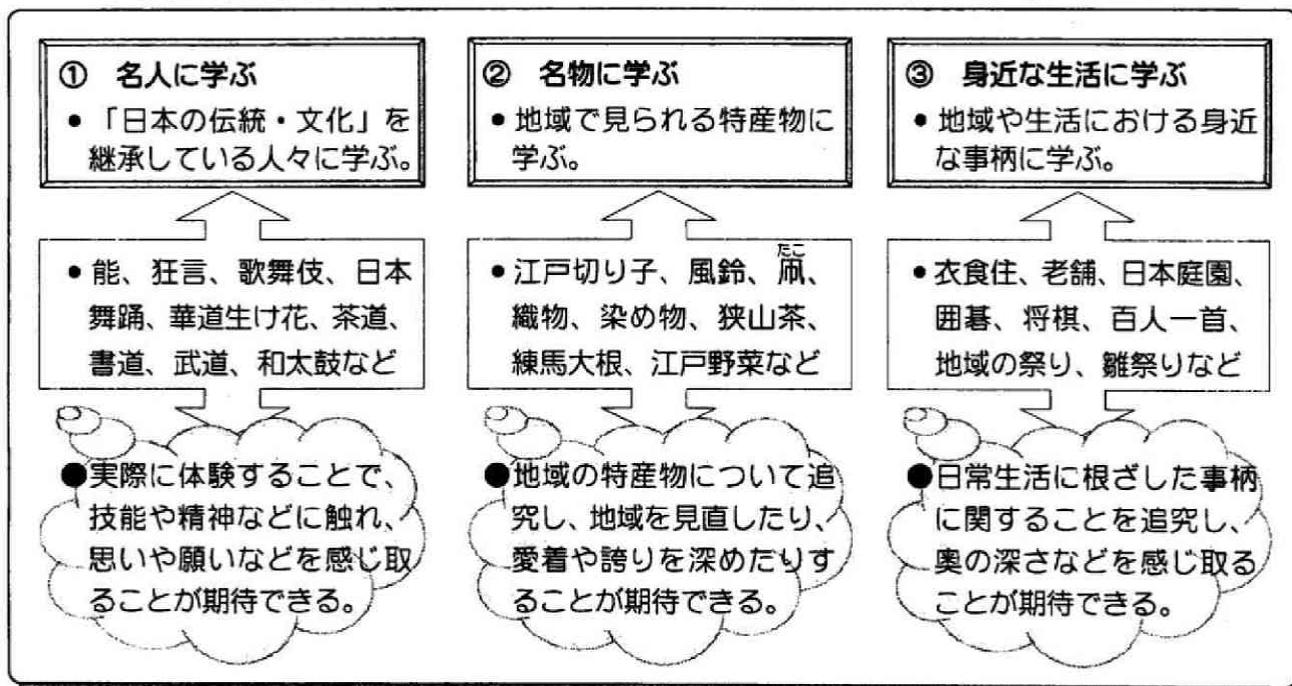
1 小学生段階で児童が「日本の伝統・文化」について学習する際の目標

- 本物に触れたり、良さを感じたりするきっかけになるようにする。
- 心情的、共感的に理解し、生きた知識になるようにする。

2 単元開発について

(1) 単元開発の視点

小学校で実践可能な素材を選定し、単元開発を行うための視点を、次の三点にまとめた。



(2) 専門機関等との連携の工夫

「日本の伝統・文化」の授業を行う上で、「本物体験」を抜きに考えることは難しい。そのためには教師による指導だけでなく、専門的な知識や技能をもつ方の協力が不可欠である。外部の専門家を活用し、より効果的な学習とするためには、児童とのかかわり方などについて理解を得ることが必要である。検証授業では、学習の全体像、指導していただく意図や具体的な内容、期待する効果、発達段階を踏まえた児童の実態等を明確に伝えるようにした。

① 地域の人材活用

身近な商店や神社など、地域の人々とかかわることで、その人々の地域に対する愛情に気づき、地域を見直したり愛着を深めたりすることが期待できる。インタビューなどで継続的にかかわることができるため、追究が深まることも利点である。また、今回は、地方自治体の生涯学習人材名簿に登録されている方とかかわる実践も行った。実際に話を聞いたり技能を見たりすることで、その方の深い思いや願いを知ることができる。

② 専門機関からの人材活用

文部科学省「総合的な学習の時間」応援団ウェブサイト、農林水産省などの行政機関、文化庁などの行政機関の委嘱事業など、幅広い視点から人材を探すことが可能である。

3 指導の工夫

(1) 学習過程の工夫……体験的な学習の効果的な位置付け

総合的な学習の時間における体験的な学習の学習過程への位置付けの在り方を検討した。

導入の段階への位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ● 遠い存在である「日本の伝統・文化」の世界を児童に近付けることができる。 ● インパクトの強い体験を取り入れることで感動や問題意識を喚起し、児童自ら課題を見付けることができる。
追究の段階への位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書資料やインターネット等では得られなかった情報を得ることができる。 ● 図書資料やインターネット等では得にくい「思いや願い、実感」をつかむことができる。
まとめの段階への位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習成果を基に「日本の伝統・文化」に対する思いや願いを知ることで、実感を伴った理解に深めたり、生きた知識に高めたりすることができる。 ● 学習成果を伝えることで、自己の学習の価値や意味を自ら認識する機会となり、学習意欲を向上させることができる。

(2) 見取りの工夫……個に応じた指導の充実

個に応じた指導を充実させるために、学びを見取り、指導に生かす在り方を検討した。

意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元に入る前に行うことで、児童の興味・関心の方向や程度、どんな見方や考え方をもっているかを見取り、指導計画立案に生かすことができる。 ● 同じ調査を学習の半ばと終了後にも行い、全体の傾向や個人の意識の変化を見取ることで、評価に生かすことができる。
ウェビングマップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の前後で行い、学習を通じた児童の意識の広がりや深まりを見取り、学習の成果を測定することができる。 ● 導入前と導入後のウェビングマップを児童が比較することで、学習の価値や意味を自ら感得し、メタ認知の能力や学習意欲を向上させることができる。
学習カード	<ul style="list-style-type: none"> ● 各活動ごとに積み重ねていくことで、児童の変容を見取ることができる。 ● 活動の停滞や高まりを見取り、次の活動の支援へと生かすことができる。 ● 活動を振り返る経験を重ねることで、メタ認知の能力をはぐくむことができる。

4 各教科等との関連

(1) 各教科等の内容からの発展が考えやすいもの

- 国語「短歌や俳句」、「能や狂言」、「民話」、「文語調の文章」、「書写」
- 社会「地域（第3・4学年）」、「食料生産（第5学年）」、「歴史（第6学年）」
- 音楽「和楽器」 ● 道徳「第1・2学年4(4)」、「第3・4学年4(6)」、「第5・6学年4(7)」 など

生活の中では「日本の伝統・文化」に触れる機会が少ない児童が多いので、上記の学習内容と結び付けることで、興味や意欲を喚起し、自己学習力をはぐくむことが期待できる。さらに、総合的な学習の時間に学んだことを各教科等につなげることで、各教科等と総合的な学習の時間が相互補完的・相互還流的な関係となり、さらに効果的になると考える。

(2) 各教科等で培われた能力が生かせるもの

- 国語「相手や目的、意図に応じた話し方・聞き方・書き方」 ● 社会「資料活用能力」
- 算数「分類整理する力」、「表やグラフに表す力」 ● 理科「問題解決能力」 など

教科等で培われた能力を生かして学習を進めるためには、学習に応じてどの能力を活用すればよいか気付かせる支援をしていくことが必要である。

5 実践事例① 名人に学ぶ 単元名「発見!! 日本の伝統・文化」(第6学年)

(1) 単元開発について

本単元は、能や生け花を体験したり、代表的な「日本の伝統・文化」を調べたりして、それらについての知識を得るとともに、その世界やそこに込められた思いや次代への願いなどを理解し、尊重していこうとする態度を育てることをねらった。

本単元では、区の人材名簿から能の専門家に、文化庁から生け花の専門家に協力いただき、全員の児童が体験できるよう設定した。

(2) 指導の工夫

ア 学習過程の工夫

能や生け花についての体験的な学習を学習過程の導入の段階に位置付けることで、児童にとって距離感のある能や生け花などに意識を向けさせ、「日本の伝統・文化」に対する興味・関心を喚起し、問題をつかみ、意欲的に追究を進める効果をねらった。

追究する過程では、インターネットや図書資料などを活用して調べることが中心になる。必要な資料や具体的な調査方法を支援できるように準備した。

イ 見取りの工夫

学習前後での児童の意識の広がりや深まりの変容を読み取るため、ウェビングマップを活用した。また、各時間後には学習カードに自分の言葉で書き重ねていくことで、児童の見方や考え方、気持ちの変化、追究の進み具合などを明確にしていくことにした。

(3) 各教科等との関連

第6学年の実践であり、社会科の学習内容の発展である。教科で学習した文化・伝統についての知識を広げ、それらの世界や考え方を理解し、愛着や誇りを深める時間としたい。

また、総合的な学習の時間で実際に触れたり体験したりすることが、教科の学習内容を深め、既習事項が「生きた知識」となる。双方向の効果を期待した。

(4) 単元のねらいと指導計画(全18時間)

〈課題発見の能力; 関〉

・「日本の伝統・文化」に関心を持ち、調べたり体験したりする課題を設定することができる。

〈主体的、創造的な態度; 関〉

・設定した課題を調べるための方法を進んで考えたり、体験のために必要な準備をしたりできる。

〈学び方・ものの考え方; 学〉

・「日本の伝統・文化」について調べながら、それらについての知識を得たり、考え方を深めたりできる。

〈コミュニケーション能力; 関〉

・自分から進んで「日本の伝統・文化」についての情報を集めたり、専門家とかかわったりできる。

〈自己の生き方; 生〉

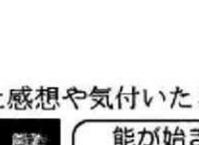
・「日本の伝統・文化」とのかかわりを通して、そのよさを実感し、それらを守り伝えている人々の考え方に共感することができる。

	学習活動	評価
出 会 う ⑤	○身の回りの「日本の伝統・文化」について話し合う。① ○能や生け花について体験する。④	関「日本の伝統・文化」に興味・関心をもつ。 関 関 進んで体験活動に参加したり、講師の方にかかわろうとしたりする
つ か む ③	○体験の感想を話し合い、「日本の伝統・文化」についての課題を出し合う。③ 日本の伝統・文化について調べよう	関自分で興味をもつたものについて調べる課題を決める。
調 べ る ④	○自分たちが決めた課題について調べる。④	関資料を活用して調べたりまとめたりできる。 学必要な情報を集めることができる。
ま と め る ⑥	○調べたことや体験したことをまとめる。③ ○発表する。② ○「日本の伝統・文化」について考えたことを話し合う。①	学調べたことを分かちやすく発表する 考伝統や文化を比較し、そこにある考え方をを見つける。 生日本の伝統や文化について見つけ、継承の必要性を考えることができる。

(5) 本時の展開 (2、3時 / 18時)

- ア ねらい ・感想や気付きから、課題設定の視点をもつことができる。(課)
 ・進んでゲストティーチャーとかかわり、能について深く知ろうとする。(㊦)

イ 展開

学習活動	◆評価 ・支援
<p>1 ゲストティーチャー (以下、GTと記す) と出会う。 2 能やその他の文化のイメージを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">能を教わろう</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>うたい (謡体験)</p>  </div> <div> <p>音楽のときは全く違う声というのがおどろいた。声の上げ下げが難しかった。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>(仕舞体験)</p>  </div> <div> <p>扇の持ち方や腕を伸ばしたまま歩くのが難しかった。これをやっている人はすごいと思った。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>(能面体験)</p>  </div> <div> <p>能が始まったきっかけは何だったのだろうか。だれが考えたのだろうか。 何代ぐらい続いているのだろうか。どんな気持ちで受け継がれているのか。 今まで能はしぶくて言っていることがわからなかったけれど、体験してみて長い歴史をもった日本の文化なんだなと思った。</p> </div> </div> </div>	<p>・能楽師2名をGTとして招く。 ・ウェビングマップで児童の印象を確認し、関連付ける。</p> <p>◆進んでGTとかかわり、能について深く知ろうとしていたか。(㊦)</p> <p>・自分からGTにかかわれない児童には、声をかけたり、面を手にとらせたりして、参加しやすいようにする。 ・動きが難しく不安そうに取り組んでいる児童には、認めたり、励ましたりして、安心して取り組めるようにする。</p> <p>◆感想や気付いたことから、課題になる視点をもつことができたか。(課)</p> <p>・今後の学習の視点になるような感想や疑問を取り上げ、学習の方向性を明確にできるようにする。</p>

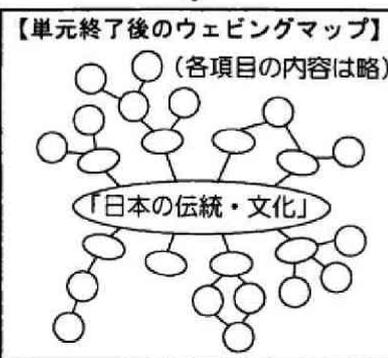
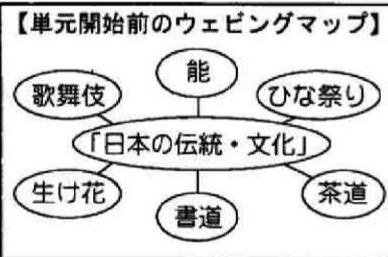
(6) 考察

児童は、能も生け花も初めての体験だった。体験の効果は大きく、児童はそれらがもつおもしろさや難しさを感じ取り、興味・関心を高め、追究する意欲をもつことができた。

学習前に取り組んだウェビングマップではほとんど書けない児童も多く、「日本の伝統・文化」に対しての意識の低さが見られた。

しかし、授業後には自分が調べた伝統や文化だけでなく、友達が調べたものについても意識を広げ、さらに、「日本の伝統・文化」に対する自分なりの考え方も構築できるようになってきた。

(抽出児童の学習記録から)



【単元終了後の学習カード】

わたしは茶道を調べましたが、和太鼓、日本舞踊などの発表を聞いているうちに日本の伝統は歴史が長いものが多いと思いました。今まで「伝統・文化なんて」と、あまり興味がなかったけれど、調べたり体験したりしてみて「伝統・文化」は楽しめるものなんだと思いました。こう思えるようになったのも「学習したおかげかな」と思いうれしい気持ちになりました。これからも「伝統・文化」が続いて今よりも発展してほしいと思いました。

わたしたちのくらしにとって「伝統・文化」とは、目で見て楽しめるものであったり、味で楽しめるものであったり、昔の人たちはこういうことを楽しんでいたのかなと思いました。

6 実践事例② 名物に学ぶ 単元名「茶のこころ」(第6学年)

(1) 単元開発について

前単元「わが町瑞穂」で、狭山地域で盛んな茶の栽培や、古くから残る街道(日光街道、江戸街道)と宿場の歴史、鉄道、自然などについて学習し、地域について理解を深めた。

本単元では、地域の特産物である狭山茶から「茶道」へ学習を広げ、古くから伝わる日本文化に触れることを通し、そのよさに気付く、それらを尊重する気持ちを育てていきたいと考えた。

そのため、手もみ茶づくりとお茶会の2回の体験を設定した。手もみ茶づくり体験では地元の生産者の方に、お茶会体験では茶道の心得のある方(当該校嘱託教諭とその知人)にそれぞれ協力を依頼した。

(2) 指導の工夫

ア 学習過程の工夫

単元の始めの「つかむ」段階で、狭山茶を栽培する方の話を聞き、手もみ茶をつくり、その粉末茶を点てて飲む体験をする。地域の特産物である狭山茶から茶道へ視野を広げる効果をねらった。

「取り組む・まとめる」段階で調べたことを踏まえ、単元終わりの「深める」段階でお茶会を体験することにより、学習で得た内容を「生きた知識」とし「日本の伝統・文化」に対する理解をより深めることをねらった。

イ 見取りの工夫

学習前、半ば、学習後の意識調査の比較、毎時間の学習カードと自己評価、行動観察により、児童の実態と変容を見取った。

(3) 各教科等との関連

第3学年社会科での狭山茶についての学習が関連する既習内容である。第6学年社会科での茶道についての学習や、道徳での内容項目4(7)「日本のこころ」における千利休の逸話などと内容的な関連をもたせた。既習の問題解決の技能等を生かすよう働きかけた。

(4) 単元のねらいと指導計画(全16時間)

〈主体的な学習態度; 主〉

・茶道に興味をもち、進んで学習している。

〈学び方; 学〉

・課題を選定し、見通しをもって学習することができる。

・課題に適したまとめ方で、分かりやすく伝える工夫をすることができる。

〈自己の生き方; 自〉

・茶道に携わる人の思いに気付くことができる。

・「日本の伝統・文化」を尊重しようとする気持ちをもつことができる。

	学習活動	評価
つかむ④	○狭山茶の栽培をしている地元の方に話を聞き、手もみ茶づくり体験をし、粉末茶を点てて飲む。② ○茶道について自分が調べてみたいことを考える。① ○学習内容や方法を選択し、追究する計画を立てる。①	主 瑞穂の特産物狭山茶から茶道を想起し、興味をもっている。 自 狭山茶を生産している方の思いに気付いている。 学 調べてみたい問題を考えている。 主 他人の意見を課題設定に活かそうとしている。
茶道について調べよう		
取り組む・まとめる⑧	○必要に応じて情報機器を使いながら課題解決に向けて、計画的に学習を進める。③ ○学習の成果を人に分かりやすく伝えるように工夫しながらまとめる。③ ○自分の調べたことを発表する。他の発表を聞き、茶道について理解を深める。②	学 見通しをもって学習を進めている。 学 自分なりに考えながら進めている。 学 必要に応じて効果的に情報機器を使っている。 学 学習課題に適したまとめ方をしている。 主 グループの人と協力しよりよく問題解決をしている。
深める④	○お茶会をする。③ ○単元の学習をふり返り、「日本の伝統・文化」についてまとめる。①	主 意欲的に参加している。 自 日本の伝統や文化を尊重する気持ちをもっている。

(5) 本時の展開 (14、15時/16時)

- ア ねらい ・お茶会の進め方や作法を理解し、意欲的に参加する。(国)
 ・進んでGTとかかわり、茶道について深く知ろうとする。(国)

イ 展開

学習活動	◆評価 ・支援
1 GTと出会う。 2 座禅を組み、学習に気持ちを集中する。 3 二人のGTによる模範のお点前を見る。	・GT 2名を紹介する。 ・グループ分けし、進め方や作法について確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">お茶会をしよう!</div>	
4 亭主側、お客側グループに分かれて、お茶会をする。 〈亭主体験〉  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ○○さんの発表にあつた茶筌<small>ちん</small>や茶杓<small>しやく</small>の使い方が、実際にやってみて分かった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> お菓子の味が少し残って、お茶がちょうど良い味(苦み)だった。 </div> 〈お客体験〉	◆意欲的に学習している。(国) ・全体を4グループに分けて、二か所同時進行でお茶を点てさせる。 ・作法や言葉遣いに気を付けさせながらお茶会の雰囲気味わわせる。 ◆GTとかかわり、茶道について深く知ろうとしている。(国) ・茶道をたしなむ人の思いまで考えさせるようにする。
5 体験した感想や気付いたことをまとめ、発表する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 茶道を数十年も続けていてすごい。こうして伝統は続いてきたということが分かった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 茶心は人の心と心をつなぐことだと分かった。 </div>	◆「日本の伝統・文化」に興味をもっている。(国) ・早く記入できた児童の意見の中から発表させ、今日の学習を学級全体として振り返らせる。

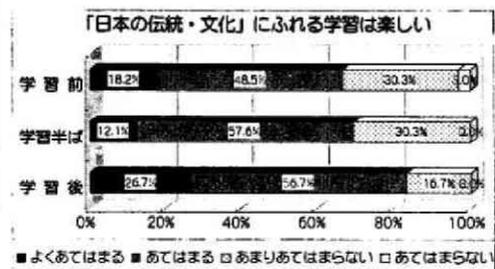
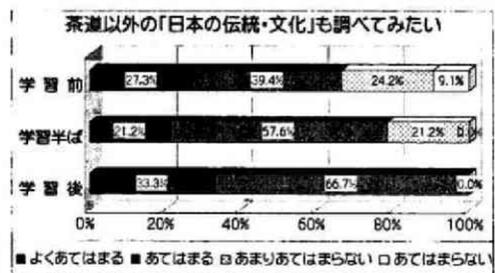
(6) 考察

自分が住んでいる地域の特産物にはじまり、地元の方や当該校嘱託教諭など、身近な人がGTだったので、「日本の伝統・文化」に対して親近感をもって学習が進められた。

児童の意識調査を、単元の学習が始まる前と、手もみ茶づくり体験後学習課題を設定した「つかむ」段階と、学習が終わった後の3回行った。調査項目はどれも良好な変容が見られたが、特に変わったのは「茶道以外の「日本の伝統・文化」も調べてみたい。」という項目である。(右のグラフ参照) これらのことから、小学校で本物に触れる体験をし、「日本の伝統・文化」に興味をもたせたいというねらいは達成したと考える。

また、お茶会をする前は「堅苦しいのはいやだ。」と考えていた児童が、体験を通して、「楽しかった。歴史を感じることができた。」と変化した様子も、この調査から読み取れた。

〈児童の意識調査から〉



このほか、項目「茶道について調べたい」で「よくあてはまる」「あてはまる」とした児童の割合が大幅に増加した。茶道に対する興味・関心や追究意欲を喚起できたと考える。

7 実践事例③ 身近な生活に学ぶ 単元名「見直そう日本の食“米”」(第5学年)

(1) 単元開発について

本単元は、児童にとって身近な食文化である「米」から「日本の伝統・文化」に迫った。米を中心とした日本の食文化について調べ、先人の食に対する工夫を知ったり、それを今も大切に守り伝えている人々の思いや願いを受け止めたりすることで、日本の食文化のよさを見直し、大切にしていこうとすることをねらった。

(2) 指導の工夫

ア 学習過程の工夫

単元の始めの「ふれる」段階で、農林水産省農政事務所の方をお招きし、米や米づくりに関する専門的な話をうかがったり、脱穀体験やもみすり体験をしたりする。それにより、単なる調べ学習にとどまらず、人々の思いや願いに共感しながら課題を追究していくことをねらった。

また、「課題追究」段階では、地域にお住まいの方で煎餅、和菓子、寿司をつくる職人の方に協力していただいた。思いや願いを実感するだけでなく、継続的に触れ合うことで、理解をより深めることをねらった。

イ 見取りの工夫

毎時間ごとに学習カードへ記入させ、児童一人一人の見方や考え方の変容を見取った。また、児童の思考の流れに即した学習とするための適切な支援へと生かした。

(3) 各教科等との関連

児童にとって「日本の伝統・文化」に目を向けるときに無理のない題材をと考え、当該学年社会での学習や、1学期から取り組んだ「バケツ稲作り」の活動を発展させた。

「課題追究」段階ではインタビュー活動を取り入れた。国語「インタビュー名人になろう」単元で学習したことを想起させ、相手意識や目的意識をはっきりさせてインタビューするよう支援した。

(4) 単元のねらいと指導計画(全22時間)

〈課題設定の能力;設〉

- ・日本の伝統的な食文化に関心をもち、課題を設定することができる。
- ・課題解決のための手段や方法に見通しをもち、懸隔したり準備したりすることができる。

〈問題解決の能力;解〉

- ・課題をとらえ、情報を集め、吟味し活用することができる。
- ・自分なりの方法でまとめることができる。

〈自己表現力;表〉

- ・調べた内容や自分の考えがよく伝わる方法を選び、分かりやすく表現することができる。

〈自己の生き方;生〉

- ・活動の成果や課題を評価しながら、日本の伝統的な食文化のよさを実感し、大切にしていこうとする人々の思いや考えに共感することができる。

	学習活動	評価
ふれる⑥	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにある伝統的な食文化について話し合う。① ○脱穀・もみすりなどの体験をする。② ○日本文化と米のつながりを知る。① ○新米を味わう。② 	<ul style="list-style-type: none"> 設興味・関心をもち日本の食文化を考えようとしている 設GTの話から、米についての見方や考え方を深めている。
課題づくり②	<p style="text-align: center;">見直そう日本の食“米”</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験の感想を話し合い、日本の伝統的な食文化について課題を出し合う。② 	<ul style="list-style-type: none"> 設追究したい課題を決める。 設どのような調べ方で追究していけるか見通しをもつ。
課題追究⑧	<ul style="list-style-type: none"> ○食文化を支える人々にインタビューするなどして調べる。⑧ 	<ul style="list-style-type: none"> 解課題について資料を活用し調べたり必要な情報を集めたりする。
まとめる・つなげる⑥	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことや体験したことをまとめる。③ ○発表する。② ○これまでの体験や発表を聞いて気付いたことや感じたことを話し合う。① 	<ul style="list-style-type: none"> 表調べたことを分かりやすくまとめて発表する。 生日本の食文化のよさを実感し、大切にしていこうとする思いや願いをもつ。

(5) 本時の展開 (4時 / 22時)

ア ねらい ・日本の食文化に関する課題の視点をもつことができる。(設)

・GTから話を聞き、米と日本人のかかわりを感じる。(生)

イ 展開

学習活動	◆評価 ・支援
<p>1 GTと出会う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本人と米とのつながりをつかもう</div> <p>2 GTの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米と日本人の関係 ・稲作と日本の文化 ・米に対する日本の人の思いなど  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">この先生はお米をすごく大切にしていきたいと思っているんだ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お米は昔は特別なときしか食べられないものだったのか。</div>  <p>3 稲わらを用いて縄ないをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米を収穫した後の稲わらの利用も生活の中に息づく文化であることをつかむ。 <p>4 GTに質問をする。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">稲って捨てる場所がないね。日本人は利用上手だな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">一年に一度しか取れない貴重な米だから、全部使って無駄を出さないようにしたんだと思う。</div> <p>5 学習カードに感想や気付いたこと、疑問に思ったことなどをまとめる。</p>	<p>◆農林水産省農政事務所の方との前回の学習活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモをとりながら話を聞き、感じたことや思ったこと、不思議に思ったことなども記録しておくように促す。 ・児童にとって難しかったことは、もう一度説明する時間をとる。 <p>◆話を聞いたり、体験をしたりする中でこれまでの自分の認識を深めようとしている。(生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいの実現にかかわる児童のつぶやきや学習カードの記録を見取り価値付けたり、意味付けたり、よさを他の児童に伝えたりする。 <p>◆追究していこうとする課題の視点をもつことができる。(設)</p>

(6) 考察

「ふれる」段階及び「課題づくり」の段階で専門家にお話をうかがい、普段何気なく接している米や当該学年の社会で学習を済ませた「米づくり」に対し、過去から現在まで連綿とつながる歴史を実感を伴って感じることができた。

「課題追究」の段階で、地域にお住まいで食文化を支える煎餅、和菓子、寿司をつくる職人の方と繰り返し触れ合うことができた。実際に「日本の伝統・文化」の技に触れ、素直な感動を表出する児童が多数見られた。感動を喚起される体験を得て意欲が高まり、学ぶ楽しさを体得していった。さらに、インターネットなどによる表面的な知識の吸収にとどまらず、日本の食文化を守り伝えている人々の思いや願いを感じるまで学習を深めていくことができた。

〈抽出児童の学習カードから〉

【本時の学習活動前の記述から】

農家の人が苦労して作っているのを社会の時間に勉強したけど、大切に食べなくちゃいけないとおもう。米を使った日本の食っていっぱいあるんだと思った。特に和菓子は面白そう。米から出来ているなんて知らなかった。



【本時の学習活動後の記述から】

いつも食べているものの中に日本の文化がたくさんかかっていた。日本の食文化は今までずっと続く歴史があって支えていた人がいたことを知った。今ほくたちが食べているものがずっと続いてきているなんて思ったことがなかった。それから今も一生懸命、日本の食文化を大切にしている人たちがいた。和菓子屋さんが大事な日本らしい気持ちを守ってきたいとおっしゃっていたのがすごいと思った。

IV 研究のまとめ

1 研究開発の成果

(1) 単元開発について

第3・4学年では地域社会、第5学年では農業及び食、第6学年では歴史の発展として、各学年の発達段階に合わせて単元開発をしたことにより、「日本の伝統・文化」に対する児童の意識を深めることができた。

(2) 専門機関等との連携の工夫

専門家をゲストティーチャーに招いた体験的な学習は、その人々の語りや実演などから児童が感動や実感を得て、知識と体験を結び付けることになり、「生きた学習」となった。

ゲストティーチャーに学習の意図などを明確に伝えたり、児童がゲストティーチャーと身近に接する場を設定したりすることで、一層効果的な学習とすることができた。

(3) 学習過程の工夫

ゲストティーチャーを招いた体験的な学習の学習過程への位置付けを工夫することで、一層効果的な学習とすることができた。体験に対する教師の意図的・計画的な働きかけが大切である。

(4) 見取りの工夫

意識調査やウェビングマップ、学習カードなどを積み重ねていくことにより、児童の見方や考え方の変容を見取るだけでなく、児童の学習意欲も喚起することができた。教師がねらいを明確にもって指導に当たることが、児童の主体的な学習活動に大切である。

(5) 各教科等との関連

総合的な学習の時間において各教科等の学習内容を発展させたり、総合的な学習の時間での学習内容を各教科等で取り上げることにより、児童の視野が広がり、「日本の伝統・文化」に関する理解を深めさせることができた。

また、各教科等で身に付けた技能等を総合的な学習の時間で活用させるように支援したところ、手際よく追究することができるようになった。

2 今後の課題

(1) 単元開発について

「日本の伝統・文化」にかかわる学習のきっかけや基礎として、発達段階に応じた内容を取りあげ、4年間をかけて意図的・計画的に積み上げていくよう、各学校で工夫して指導計画を立てることが必要である。

(2) 外部人材の活用について

「日本の伝統・文化」にかかわる学習では、外部人材や専門機関等の協力が必要である。ゲストティーチャー選定に当たり、人材名簿から情報を集めることが可能な場合は極めて少ない。ゲストティーチャーに提供していただく内容が学習に合っているかなど、事前に把握することも難しい。

また、綿密に打ち合わせをしても、授業場面で教師の意図とゲストティーチャーの思いが合わなかったり、児童の発達段階に合わなかったりということが生じる可能性もある。

学校と外部人材の双方にとってメリットとなるようなかかわりを研究する必要がある。